

JP通信

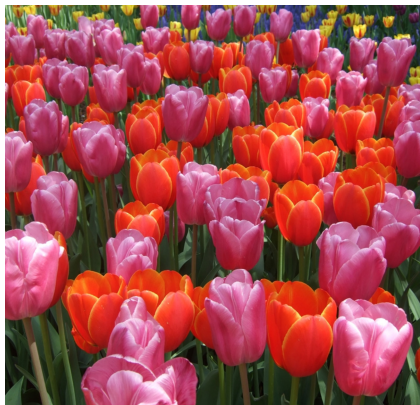


特急おぞら、空間が広々です！

鶴ヶ岱公園は歴史深く、釧路市 民に愛されている素敵な公園♪

色とりどり華やかな春の花・チューリップ

釧路に本格的な春を告げる「くしろチューリップフェア&花フェア」は今年で五十一回目。五月二十四日・二十五日の二日間開催されます。開催場所の【鶴ヶ岱公園】は歴史が古く、大正十五年に茂知矢（モシリヤ）公園予定地として造成が行われましたが、戦争の為に着てできず、終戦後の昭和二十六年に現在の鶴ヶ岱公園が開園されました。その際に釧路市立郷土博物館が（市役所本庁舎内）や丸三鶴屋を経て）鶴ヶ岱公園に移転しました。そこには小動物園や植物園も併設され、珍しい公園として市民の憩いの場所となっていました。昭和五十年代には、動物園と博物館がそ



可憐に咲いて、気分が明るくなります♪

れぞれ現在の場所へ移転。その後、武道館が整備されました。平成元年には、民間からの寄付により京都の北山杉を使用した本格的な数寄屋造りの茶室【鶴翔庵】が建設され、季節の花が楽しめる庭園になりました。フェアの時だけではなく、のんびり散策してみるのもいいですね。ところでひょうたん池は、グーグルで見るとひょうたんにも見えるし、北海道の形にも見える気がするのですが、皆様はどう思いますか？

◆釧路沖地震を調べてみた◆

液状化現象により突出したマンホール

1993年1月15日20時06分、釧路南方沖を震源とする、M7.8の地震が発生。震源が101kmと深かったことと、寒冷地という土地柄、一般住宅でも地震に強い建築方法が取られている家が多いためか、地震の規模を考えると、それでも被害は最小限度だったと言われています。その際に、液状化した地盤からマンホールが突出した場所がありました。現在その突出したマンホールは、釧路町役場前の駐車場脇に設置されていることをご存知でしょうか？実際に突出した場所は、泥炭の軟弱地盤で、補強のために砂を入れていたそうです。液状化は、同じ大きさや成分の砂が地下水で満たされている場合に発生しやすいといわれていて、地震の振動により地下水の水圧が高くなり、砂の粒子の結びつきがバラバラになって水に浮いた状態になる、これが液状化だそうです。この状態になると、水の比重よりも重いものは沈み込み、逆に軽いものは浮き上がる場合があります。それが、マンホールが突出した原因です。その後も日本各地で大きな地震が発生していますが、時間が経つにつれ、災害の記憶や警戒心は薄れてしまいがちです。この機会に、防災・減災について確認してみるのはいかがでしょうか。

金利上昇のメリットを考えよう

昨年三月のマイナス金利政策解除に始まり、七月、そして今年に入つて一月と、日本銀行による政策金利の引上げが行われていきます。金利が上がる住宅ローンなどの金利も上がるので、マイナスのイメージが強いと思いますが、一概にマイナスとはいえないかもしれません。借入の金利が上がるということは、新

NISAなどの『投資』による運用が話題となっていました。元本割れのリスクも。昨今は金利



投資は「余剰資金」で運用しよう！

上昇が続くことにより『預金』のメリットが増している。元本保証があり、かつ安全確実に資産形成ができる『預金』が改めて注目されています。様々な要因によって、野菜やお米（その他の食品類）の高騰も継続しています（備蓄米の放出もありましたね）。そんな時代だからこそ、将来を見据える事が大切です。預金の比率を上げ安心感を味方にして確実に貯めていくのか、投資でより早く貯めるか、将来設計の見直しにとても良いタイミングかも知れません。

左の写真は地震発生時に突出したマンホール。出展：釧路開発建設部様※右側は現在の様子です。



出展：北海道開発局 釧路開発建設部 様 公式Xより

